

- ・対象地区：遠別町
- ・地域人口：3,008人
(平成25年3月末 住基台帳)
- ・漁港：遠別漁港(4種)
- ・漁業就業者：35人(平成20年 漁業センサス)

遠別地域マリンビジョン

～海と大地の恵みが奏でる元気な食のクリーン産地～

■拠点漁港タイプ

- ・衛生管理流通拠点漁港
- ・増養殖支援拠点漁港



遠別漁港



ホタテ稚貝作業



みなくるびーち



富士見ヶ丘



現状と課題

現状

- ・地域人口の減少と高齢化が進行
- ・農薬使用量が道内平均 1/2、全国平均 1/4
- ・漁業はホタテ養殖を中心に安定
- ・蓄養施設の充実により安定した活魚の取扱
- ・漁協直営加工事業が漁業生産に並ぶ出荷高

課題

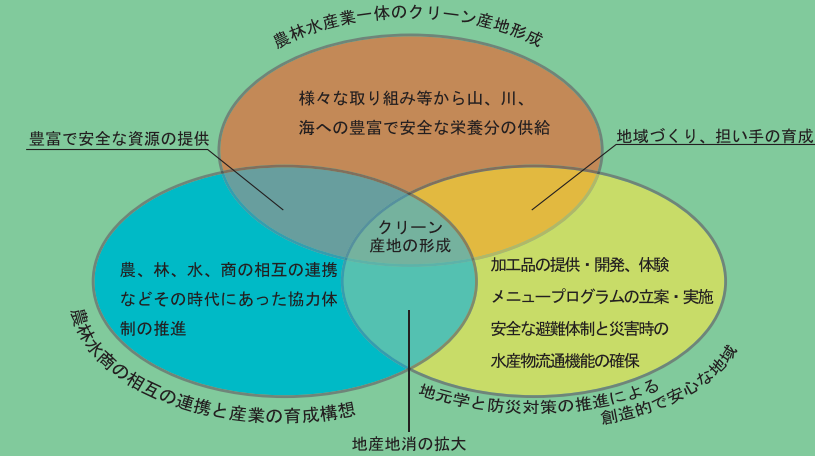
- ・農林漁業の担い手育成と定住促進
- ・漁業と農林商業の連携
- ・よりクリーンな産地づくり
- ・地産地消の拡大、地域の知名度の向上
- ・街の魅力、にぎわいづくり

地域の目指す姿

■ビジョンの特徴

農林水産業の連携により、北海道のモデルとなる環境にやさしいクリーンな産地形成を目指すとともに地域資源を有効活用しクリーンな農林水産物のハーモニーで地域の元気と食の安全・安心を支える

- ①農林水産業一体のクリーン産地形成
 - ・クリーン産地としての農林水産業の推進
 - ・域内外に向けた安心安全な食の提供
- ②農林水商の相互連携と産業の育成構想
 - ・地元水産物の域内消費の拡大、特産加工品の開発
 - ・都市部への展開・PRによる販路の拡大、知名度向上
- ③地元学と防災対策の推進による創造的で安全な地域づくりと担い手の育成
 - ・異業種連携による地元学の推進と域外への情報発信
 - ・安全な避難体制の確立とホタテ養殖業へ配慮した災害時における水産物流通機能の確保



検討の推進体制

《協議会メンバー》

漁業関係者、農業関係者、林業関係者
商工会、観光協会、マリクラブ等
行政関係者

《フォローアップ委員会(仮称)》

漁業関係者、農業関係者、林業関係者
商工会、観光協会、マリクラブ関係者
学識経験者、町内会代表者、
老人クラブ連合会代表者、教育関係者、
旅館、温泉関係者
行政関係者

地域資源(特徴)

- ・農業を基幹産業とする自然環境に恵まれた地域
- ・北海道を特徴づける多種多彩な第一次産業が立地
- ・農業は、銘柄品生産や加工品開発、販売戦略等新たな取り組みを開始
- ・小学校では漁業体験授業や海外との姉妹都市交流を実施

【主な地域資源等】

- ・道の駅(とんがりかん、直売所・さわやかトイレ)
- ・海水浴場(みなくるびーち)
- ・宿泊施設(旭温泉等)

漁港の将来像

- ①衛生管理流通拠点機能の整備
 - ・陸揚げ岸壁の屋根設置
 - ・洗浄用の清浄海水供給施設整備
 - ・排水処理施設整備
- ②増養殖支援拠点機能の整備
 - ・ホタテ作業岸壁の屋根設置
 - ・養殖資材の洗浄施設の設置
- ③交流機能の充実
 - ・プレジャーボート上下架エリア整備
 - ・水産物等販売機能の充実

ビジョン実現のための主な取り組み

- 遠別町全体でのクリーン産地としての取り組み強化
- 衛生管理マニュアルの運用・改訂による衛生管理体制の強化
- 良質な農水産物の融合による特産品開発の推進
- クリーン産地のトータルイメージのシンボル等の設定
- 地産地消拡充の地場販売枠の設定と町内での販売・提供体制の確立
- 遠別産業体験メニューの企画と受け入れ体制の構築
- 学校の総合学習、生涯学習等の一環としての「地元学」の推進
- 安全な避難体制の確立とホタテ養殖業に配慮した防災対策の推進